

祭りのあと—



特集

継ぐ

終

継がれてきた伝統が、地域のつなぐりをさらに強めていく。数か月かけて丹精込めて作り上げた山笠も、解体が始まると半日で華麗な姿を消す。それでも関わる人々はさびしさを胸にしまい、作業を終えるとまた日常へと戻っていく。祭りのあとも消えずに残る大切なものがある。共有できる思い出、ともにした時間が生んだつなぐり、支えてくれる地域への感謝——。それらを胸に人々は前を向き、また次の祭りに思いをはせる。



↑無事競演会も終わり、法被姿での最後の夜。地域をあげての団らんは、日付が変わるまで続いた。

つなぐ「願い」

交差する伝統と地域のつなぐり

縦につないできた伝統が地域のつなぐりを横へと広げる。かけがえのない祭りが、地域を未来へとつなげていく。

祭りが伝える感謝の心 地域と伝統を次の世代へ

「秋祭りは『ありがとう』の祭り。みんなも感謝の気持ちを忘れないで」。池田事務局長が優しく語りかけると、児童は笑顔で応えました。神幸祭を終えた11月14日、金田小3年生78人に向けた「祭り」の授業。



↑池田事務局長(写真右)が山笠の成り立ちや祭りに込める思いを、阿部宮司が神幸祭の歴史を担当し分かりやすい表現で解説。

祭りの声

離れて感じる温かみ



上金田山笠
森野 大地 さん

5年前から仕事で県外に出ていますが、神幸祭の日だけは必ず帰ってきます。就職初年に始めて参加できなかった後悔は今も忘れません。一年に一度しか会わなくても、昨日会ったかのように受け入れてもらえる。地域の温かさを祭りの度に感じています。



←笛の練習は当日のみ。しかし一度耳についた囃子は指先で覚えている。



↑町の文化祭では11月3日から2日間、各地区の法被(はっぴ)や神幸祭の写真を展示。子どもたちは自分の地区を誇らしげに探していた。

「楽しむだけではない、祭り本来の意味が薄れないよう伝えていきます。我々が子どもの頃感じた祭りへの憧れは今の子どもと同じ。次の世代に伝統と受け継ぎ続けてほしい」。地域のことを学ぶ課外活動の中で、一番関心の高かった「祭り」が授業内容として選ばれ、今年で8回目。池田事務局長と阿部宮司、長年祭りを見つけ続けてきた2人の講師の説明に、児童は目を輝かせて聞き入りました。年齢問わず愛される最大の地域行事である祭りは、いつの時代も子どもたちの心を強く引きつけます。コミュニティ内の人と人とのつなぐりが希薄になり、地域の課題を地域で解決していく地域力が求められる中、「祭り」が残る地域は人口が減ってもつ

ながりが強いと言います。参加した全員が、意識しなくても伝統を担う一員、そして自らが暮らす地域の一員です。命への感謝、つなぐりへの感謝、祭りを支えてくれる人たちへの感謝、そしてまた祭りができる事への感謝——。この祭りで分かち合える大切なものを次代へとつなげる。そんな地域の人々の願いをのせ、またあの囃子の音とともに、祭りの日はやって来ます。

祭りの声

この地域で祭りと生きて



上金田婦人会
辰島トシ子 さん

この地域で生まれて90年、幼い頃から祭りはいつもそばにありました。今は若い人は共働きも多く、地域での協力は必ず必要です。祭りはみんなで作り上げ、みんなで支えるもの。婦人会でも最高齢になりましたが、できることはなんでもしたいと思います。



↑神幸祭の当日、山笠5基が町内の老人ホームを訪問。入所者は聞き慣れた懐かしい囃子に思わず手拍子を送る。

→神幸祭の当日、婦人会が準備した130人分の料理が疲れを癒やした。

